薬都 越中富山の薬売り

歴史

1639年に加賀藩から分藩した富山藩は委託事業などで財政難に苦しみ、加賀藩に依存しない経済基盤を作るため売薬を武器に起死回生を図りました。

商法

富山売薬業の基本理念は「先用後利」

地方の一般庶民の日常で貨幣の流通が十分ではなかったこの時代、庶民は家庭に医薬品を常備できなかったのだが富山藩2代藩主、正甫の訓示「用を先にし利を後にし、医療の仁恵に浴びせざる寒村僻地にまで広く救療の志を貫通せよ」との教えで医療品を前もって預けて必要なときに使ってもらい、代金は後日払ってもらう先用後利のシステムが出来上がった。

現在

現在でも先用後利のシステムは受け継がれ、一般家庭でも売薬を使用している家庭が多く、富山の売薬でも有名な反魂丹や六神丸は今でも使用され、富山の人々に親しまれています。